

地域人口と食行動

—格差平準化への転換期的特徴—

内野 澄子

目 次

- 1 本稿の目的と分析方法
- 2 収入、消費支出、食料費の地域格差パターンの変化
 - (1) 都道府県別観察
 - (2) 人口規模別地域分類からみた観察
- 3 エンゲル係数および食料費構成比からみた県間格差の収縮
- 4 購入食料からみた県別構造
- 5 食行動地域格差の要因
- 6 総 括

1 本稿の目的と分析方法

本稿の課題は、人間生活の中での食行動を軸としてこれを地域人口に投影し、その地域的発現の差異、特徴、変化をあきらかにすることにある。具体的分析にあたってまず決定しておかねばならないことは、地域と食行動の内容規定である。

地域をどのように区分するかは、分析に利用すべき材料に影響されるところが大きい。望ましい統計材料があったとしても地域分析に堪えないものであれば、利用も断念せざるをえない。国民栄養調査が、栄養摂取量の測定という点において国際的にもまれなすぐれた調査であるが、地域分析を可能ならしめるような基礎を欠如している。ここでの地域分析にとってもう1つの要件がある。それは時系列的比較が可能でなければならないという条件である。

次に、地域分析の対象となる食行動をどのように理解し、そしてそのような食行動についての上述の地域条件を満す統計調査を見出さねばならない。ここでの“食行動”というのは、実質的には食生活を意味するものではあるが、食生活に対する積極的な態度なり、意識の高まりの傾向を考慮に入れると、“食生活”は静態的な印象が強いのに対し、“食行動”はダイナミックなニュアンスをもっているという意味で“食行動”を選択したにすぎない。ところで、次にこのような食行動を地域的にとらえることのできる材料が問題となる。国民栄養調査、厚生省生活総合調査、食糧消費総合調査、家計調査、食意識調査等わが国にはかなりの調査がある。地域分析の条件をも考慮して検討した結果、総理府統計局の「全国消費実態調査」を利用することとした。その主要な理由は次の如くである。

それは時系列的調査結果が都道府県別に利用可能であるということである。第1回の昭和34年以降5年間隔で39年、44年（44年度の調査結果は部分的にしか公表されていないがここでの目的にとっては利用可能である）の3年次の報告書が利用できる。かつ、調査は3回にすぎないが、戦後20年の発展期の特徴的な重要時点がふくまれている。高度経済成長が順調に滑り出した初期の岩戸景気とよばれた昭和34年と景気後退の谷間に接近していた39年と、さらにその後の景気上昇期の44年の3時点で

表1 都道府県別世帯当りの実収入および消費支出の
変化(全世帯)(東京100をとした指数)

都道府県	昭34, 39, 44年					
	1世帯当り1か月 実収入			1世帯当り1か月 消費支出		
	昭34	昭39	昭44	昭34	昭39	昭44
北海道	85	76	76	91	81	81
青森	71	55	76	78	64	71
岩手	65	63	68	68	67	73
宮城	72	64	73	70	70	79
秋田	62	61	89	71	69	78
山形	66	70	71	69	65	78
福島	65	69	68	67	68	75
茨城	64	75	75	67	75	81
栃木	66	81	35	66	76	83
群馬	67	74	79	68	71	83
埼玉県	76	82	86	77	83	88
千葉県	79	82	88	80	79	92
東京都	100	100	100	100	100	100
神奈川県	94	89	91	91	92	96
新潟	69	77	82	71	80	85
富山	76	78	76	74	75	79
石川	79	91	82	76	81	87
福井	68	74	79	72	73	80
山梨	64	67	72	68	68	70
長野	70	67	78	68	71	81
岐阜	68	74	76	67	72	77
静岡県	77	79	86	76	76	86
愛知県	88	83	84	87	85	88
三重	64	65	83	68	69	81
滋賀	70	73	85	70	77	82
京都	84	93	103	87	92	92
大阪	91	92	91	92	93	93
兵庫県	83	87	87	88	90	92
奈良	66	76	76	72	76	85
和歌山	72	68	77	76	76	85
鳥取	55	63	74	55	65	77
島根	69	61	65	63	61	75
岡山	67	70	78	68	73	80
広島	65	77	78	68	79	87
山口	75	68	71	70	71	79
徳島	60	61	72	63	68	76
香川	60	67	76	65	73	81
愛媛	59	62	74	62	68	74
高松	63	57	70	62	62	74
高知	74	70	75	74	73	81
福岡	59	59	67	62	65	72
佐賀	61	56	73	62	58	69
長門	62	69	73	65	65	73
熊本	64	62	79	67	65	71
大分	59	61	68	58	58	70
宮崎						
鹿児島	58	66	58	56	61	64

表2 都道府県別1人当り消費支出および食料費
(全世帯)(東京を100とした指数)

都道府県	昭34, 39, 44年					
	1人当り1か月 消費支出			1人当り1か月 食料費		
	昭34	昭39	昭44	昭34	昭39	昭44
北海道	88	82	84	89	81	85
青森	74	62	70	79	68	73
岩手	66	67	77	75	69	77
宮城	69	70	78	75	69	80
秋田	66	66	79	74	74	82
山形	69	65	76	74	69	80
福島	63	65	74	71	67	74
茨城	67	73	80	73	75	79
栃木	64	71	82	68	69	80
群馬	68	70	80	72	69	77
埼玉県	78	84	86	81	82	86
千葉県	77	81	92	80	82	89
東京都	100	100	100	100	100	100
神奈川県	96	93	97	97	94	95
新潟	70	77	82	75	75	81
富山	75	70	79	79	74	75
石川	80	80	84	83	78	81
福井	74	72	80	75	73	78
山梨	68	69	70	72	72	75
長野	71	73	81	74	72	79
岐阜	66	71	75	72	70	76
静岡県	71	65	84	74	73	83
愛知県	88	82	87	87	82	84
三重	70	71	83	75	74	80
滋賀	69	75	79	72	74	80
京都	88	93	93	94	94	97
大阪	94	94	94	100	97	98
兵庫県	93	92	92	93	92	91
奈良	73	73	83	78	73	84
和歌山	82	79	85	89	79	88
鳥取	56	68	79	65	69	76
島根	68	62	76	73	66	74
岡山	70	77	83	75	75	81
広島	76	85	94	82	82	87
山口	75	74	83	77	74	80
徳島	65	72	79	72	73	78
香川	66	76	82	72	69	78
愛媛	64	73	79	70	74	78
高松	69	70	81	75	76	78
高知	74	72	82	81	73	82
福岡	62	66	69	70	66	69
佐賀	62	58	69	69	61	74
長門	64	68	73	71	66	72
熊本	71	65	71	74	65	73
大分	58	59	70	67	62	71
宮崎						
鹿児島	60	63	64	66	67	68

資料：昭和34, 39, 44年全国消費実態調査報告書に基づいて算出した。

(昭和34年第3巻, 昭和39年第5巻品目編, 昭和44年は未公表のため暫定数によるものである)

資料：昭和34, 39, 44年全国消費実態調査報告書に基づいて算出した。

ある。もっとも典型的な成長期の10年が、3回の調査によってカバーされていることは、この調査利用の最大利点であるとさえいえよう。

「全国消費実態調査」に類似したものとして「家計調査」がある。これは昭和21年より毎年行なわれており、5年間隔で行なわれている「全国消費実態調査」に比較して時系列比較の点においてはるかにまさっている。しかし、ここでの目的からみて重大な欠点は都道府県別集計が行なわれていないことである。また、調査対象数においては、「全国消費実態調査」の方がはるかに規模が大きく、また地域区分においても都道府県のみならず、人口規模別に6大都市または7大都市、中都市、小都市(A, B)、町村の地域区分の利用が可能である点において地域分析上有利である。

もっとも、「全国消費実態調査」においても欠点がないわけではない。いうまでもなくこの調査結果は、調査年次の9～11月の3か月間の結果であって、これを直ちにその年次の年間平均と見なすわけにはゆかない。つまりある程度季節的な要因に左右されるので、家計収支を分析する上で考慮すべき点である。

本稿ではもっぱらこの3年次にわたる「全国消費実態調査」結果を利用し、食料費、購入食料を中心として都道府県、および人口規模別地域の両区分により地域格差の構造およびその変化の特徴をあきらかにするための分析を行なった。

2 収入、消費支出、食料費の地域格差パターンの変化

まず、最初に食行動を基本的に規定する要因である世帯実収入、世帯消費支出、1人あたり消費支出および1人あたり食料費の地域格差の変化を都道府県および人口規模別地域区分によって考察しておこう。

(1) 都道府県別観察

ここではこれら諸指標の絶対的水準よりも格差が問題であるため、それぞれの指標を指数に換算した結果による分析を行なった。

表1は世帯あたりの1か月の実収入と世帯あたり1か月の消費支出を、東京都を100とした指数で府県別分布を示したものである。表2は1人あたり1か月消費支出と1人あたり1か月の食料費を表1と同じく東京都を100とした指数による府県別分布を昭和34年、39年、44年の3年次について計算したものである。さらにこの46都道府県のこれらの指標の変化を多少分かり易く示したものが表3、表4である。表3ではこれら4個の指標を指数の水準別にとりまとめたものであり、表4-1は、この水準別分布を100分比で示したものである。

表3 東京を100とした世帯実収入、世帯消費支出指数および1人あたり消費支出、食料費の水準別府県数分布(全世帯) 昭34, 39, 44

指数水準	世帯実収入			世帯消費支出			1人当たり					
							消費支出			食料費		
	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44
90～	2	3	3	3	4	5	3	4	6	4	4	4
80～	4	6	11	4	5	19	5	6	19	8	5	19
70～	12	14	25	14	18	19	15	20	17	28	20	20
60～	22	18	5	21	16	2	20	13	3	5	16	2
50～	5	4	1	3	2	—	2	2	—	—	—	—

備考：全世帯とは勤労者世帯と2人以上の普通世帯で世帯主が社長、取締役、理事などの会社団体の役員である一般世帯を合せたもの。

表 4-1 世帯実収入、消費支出および1人あたり消費支出、食料費の各指数の水準別府県数の分布 (全世界帯) 昭34, 39, 44

指数水準	世帯実収入			世帯消費支出			1人あたり					
							消費支出			食料費		
	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44
90~	4.4%	6.7%	6.7%	6.7%	8.8%	11.1%	6.7%	8.8%	13.3%	8.9%	8.9%	8.9%
80~	8.8	13.3	24.4	8.8	11.1	42.2	11.1	13.3	42.2	17.8	11.1	42.2
70~	26.7	31.1	55.6	31.1	40.0	42.2	33.3	44.4	37.8	62.2	44.4	44.4
60~	48.9	40.0	11.1	46.7	35.6	4.4	44.4	28.9	6.7	11.1	35.6	4.4
50~	11.1	8.9	2.2	6.7	4.4	—	4.4	4.4	—	—	—	—
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

備考：表3を百分比で示したもの。

表 4-2 平均、標準偏差、変化係数 (都道府県別)

(全世界帯)

指標	世帯実収入			世帯消費支出			1人あたり					
							消費支出			食料費		
	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44
平均	円 30,436	円 51,868	円 91,845	円 23,186	円 40,775	円 65,120	円 5,139	円 9,694	円 16,541	円 2,383	円 3,866	円 6,212
標準偏差	4,297	7,686	10,194	3,191	5,246	6,190	716	1,242	1,502	265	459	554
変化係数	14.12	14.82	11.10	13.76	12.87	9.51	13.93	12.81	9.08	11.12	11.87	8.92

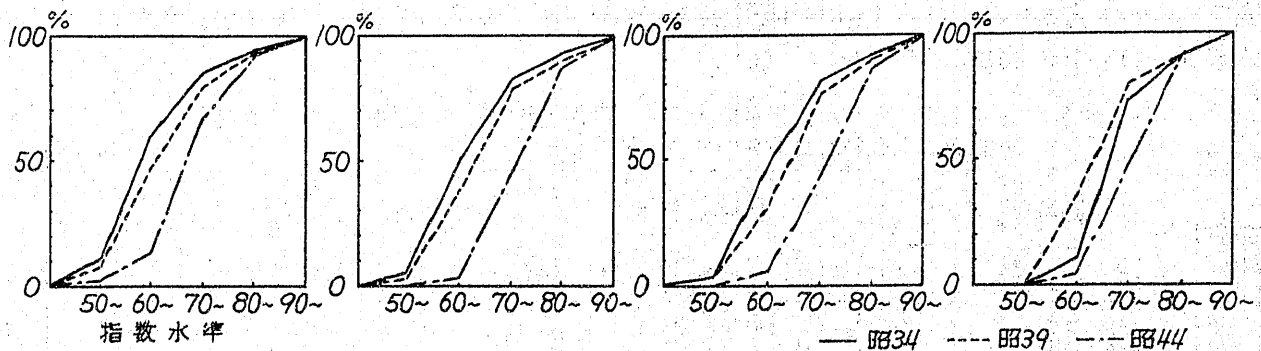
実数により算出。

実収入=勤労所得、事業所得、資産所得、その他の所得をさす。

消費支出=住居費、光熱費、食料費、被服費、その他の支出をさす。

図1 世帯あたり実収入、消費支出ならびに1人あたり消費支出、食料費の指数水準別にみた県別分布の累積度数比較

- (1)世帯実収入指数水準による県別分布 (2)世帯消費支出指数水準による県別分布 (3)1人あたり消費支出指数水準による県別分布 (4)1人あたり食料費指数水準による県別分布



世帯あたりの実収入および消費支出、さらに1人あたり消費支出の3つの指標に共通にみられる傾向は、東京都を100とした府県別の指数分布において右下に向ってのシフトの傾向が著しいということである。図1の(1)、(2)、(3)はこれら3つの指標の水準別分布度を累積度数比図で示してあるが、昭和34年と39年を比較してみるとこのようなシフトはなお軽微であるが、44年においてはきわだったシ

フトがみとめられる。昭和34年および39年においては東京都の100に対して6割台の低水準と7割台の水準の県が全体の70%あまりを占めている。特に実収入では34年、39年ともに6割台の県がもっとも多い。しかし、44年においては7割台あるいは8割台の県がもっとも多くなり、この両者をあわせると80%に達する。特に注目してよいのは、世帯実収入では7割台のものがもっとも多く55.6%を占めているのに対して、世帯消費支出では8割台の水準の県と7割台の水準の県がそれぞれ42.2%を占めていることと、1人あたり消費支出では8割台水準の県がもっとも多く42%を占めていることである。このことは、実収入でみられる格差に比較して、消費支出ではより一層高い水準に向って格差収縮が進んでいることを示唆している。東京都水準の半分といった実収入の県は、昭和44年においてなお1県残っているが、消費支出の方では消滅している。

以上のことは所得水準の一般的上昇にともなって、一方では実収入の格差がなお大きく残りながら、他方において消費支出自体の水準が全般に上昇してきたというように理解することができよう。

このような世帯あたり実収入、世帯あたり消費支出および1人あたり消費支出の3つの指数と比較してかなり異なった傾向を示しているのは、1人あたり食料費の指標である。表4-1および図1の(4)にみられるように39年においては34年に比較して東京都水準の8割台の県が減少し、6割台のものが増大しており、累積度数比図では昭和34年よりも左方に向ってシフトしており、他の3つの指標と全く異なった傾向を示している。

これがどのような理由によるものであるかの説明はこんなであるが、次のように理解することもできよう。それは前述のように世帯実収入、消費支出、あるいは1人あたり消費支出のいずれにおいても、昭和34年から39年にかけての上昇シフトがあまり顕著でなく、伸びなやみがみられるといった事情が、食料費というしわよせされ易い消費支出項目の上昇シフトを反対に押下げる方向に作用したということである。しかし、昭和44年になると世帯実収入、消費支出とほぼ同様に右下に向ってのパターンのシフトが生じる。

以上の点から予想されることは、県間格差のパターンという観点からみると第1点は、実収入や消費支出の変化に比較して食料費のそれにはおくれがみられるということと、第2点は急激に上層に向っての格差収縮がはじまったのはほぼ昭和40年以降であるということである。次に第3点としては、このような高水準に向っての格差の収縮傾向は、実収入におけるよりも消費支出、食料費においてより顕著であることは非常に重要な点である。いいかえると、国民の消費生活や食生活に対する意識のおくれがやっと回復しはじめたということである。

表5 人口規模による地域区分からみた実収入、消費支出、食料費の各指数
(大都市を100とした指数) (勤労者世帯)

地域区分	世帯実収入				世帯消費支出				食料費			
	昭34年	39	44	増加率 44年/34年	昭34年	39	44	増加率 44年/34年	昭34年	39	44	増加率 44年/34年
中都市	86	73	86	0	85	86	97	14.1	88	85	95	7.9
小都市A	81	84	86	6.2	80	83	95	18.7	84	82	95	13.1
小都市B	75	79	81	8.2	73	78	88	20.5	78	79	88	12.8
町村	69	73	76	10.1	82	73	83	1.2	74	73	83	12.2

備考：大都市＝東京都区部、横浜市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、北九州市

中都市＝人口15万以上の都市

小都市A＝人口5万以上15万未満の都市

小都市B＝人口5万未満の都市

勤労者世帯とは2人以上の普通世帯で、世帯主が会社、商店、学校、官公庁などに雇用されているもの。

(2) 人口規模別地域分類からみた観察

次に同じく「全国消費実態調査」により、市町村の人口規模による5個の地域分類の観点から世帯実収入、世帯消費支出、世帯食料費の地域格差とその変化を考察してみよう。ここでは大都市の水準を100とした指数で中都市、小都市(AとB)、町村を示してみると表5の通りである。ここでも注目される点は、昭和39年の変化である。世帯あたりの実収入では中都市のそれが34年に比較して低下しており、消費支出では町村が下っており、また食料費においては小都市のBのわずかな増大を除いて、中都市、小都市および町村はそれぞれ34年よりも下っている。特に、食料費指数において昭和34年に比較して39年が一般的に低下していることは、都道府県別にみたばあいの傾向に対応するものであると考えられる。また、世帯の実収入や消費支出においても昭和34年に比較して39年の指数が伸びなやんでいるのも、都道府県のばあいとほぼ同様である。

しかし、ここで注目される点は、昭和34年と44年の比較において世帯の実収入の伸びは、人口規模の小さい市町村ほど高い(表5)ということである。したがって、市町村間の格差は急速に収縮する傾向を示しているということである。しかし、それにもかかわらず、90%の水準に達していないということである。さらに、消費支出についてみると市部に関する限り都市の規模が小さくなるほど伸びが著しいということ、町村ではわずか1.2%にすぎない。小都市Bを除くと、中都市および小都市Aでは東京都水準に非常に近い消費支出水準(中都市では97、小都市Aでは95)に達している。ここでも注目されることは町村の消費水準指数が昭和34年では小都市AやBよりも高いということであるが、これはおそらくほとんど農村であると考えられる町村での米価を中心とする収入の増大による消費支出水準の高かったことによるものかと思われる。

しかし、次に指摘する世帯の食料費指数は町村が最低水準にあるが、このことは消費支出が食料費のぎせいのもとに耐久消費財その他の支出増大

表6 都道府県別にみたエンゲル係数の変化(全世界)

都道府県	昭 34 年	39 年	44 年
北海道	43.7	39.2	38.3
	46.6	43.7	39.4
	49.1	41.1	37.9
	47.5	38.9	38.7
	48.8	44.1	39.3
山形県	46.3	42.2	39.5
	49.1	40.7	38.0
	46.8	40.5	37.4
	46.5	38.5	36.8
	46.1	39.3	36.2
静岡県	45.3	38.9	37.5
	45.0	40.2	36.7
	43.5	39.7	37.8
	43.9	40.3	37.2
	46.5	38.6	37.4
富山県	46.9	41.6	37.4
	45.0	38.8	36.4
	44.0	40.5	37.0
	45.9	41.5	40.2
	45.4	39.1	36.8
岐阜県	47.0	39.4	38.1
	45.5	40.0	37.3
	42.8	39.6	36.6
	47.1	41.0	36.8
	45.2	39.0	38.2
京都府	46.3	39.8	39.3
	46.0	40.8	39.4
	43.6	39.3	37.5
	46.5	39.8	37.9
	47.1	39.9	39.2
鳥取県	50.0	40.7	36.5
	41.5	42.2	37.2
	46.5	38.7	37.1
	47.2	38.3	35.2
	45.0	39.7	36.3
徳島県	48.4	39.8	37.1
	47.6	35.9	35.9
	47.6	40.1	37.4
	47.6	42.7	36.8
	47.7	40.1	37.5
佐賀県	48.7	39.8	37.7
	48.0	42.2	40.2
	48.0	38.8	36.8
	45.5	39.3	37.0
	50.8	41.9	36.2
鹿児島	48.3	41.7	39.0
平均	46.5%	40.2%	37.6%
標準偏差	1.736	1.493	1.135
変化係数	3.74%	3.72%	3.02%

資料：各年次別全国消費実態調査報告書品目編より算出。

が行なわれたことを示唆している。

同じく表5に示されている如く昭和44年の市町村別の水準指数の分布は、消費支出とほとんど同じパターンを示していることが注目される。町村の食料費指数は昭和34年では最低であったが、昭和44年においても最低である。しかし、町村の消費支出指数は34年から44年にかけてほとんど上昇していないにもかかわらず、食料費では74から83へと12%の増加率を示していることは、食料費の中味は別として農村における食行動意識の高まりをあらわしているものと考えられる。

3 エンゲル係数および食料費構成比からみた県間格差の収縮

次に、「全国消費実態調査」結果によって消費支出に対する食料費の割合、いわゆるエンゲル係数を県別に算定し、昭和34, 39, 44年の3年次についての変化を示すと表6の通りである。平均値は昭和34年の46.5から39年の40.2、それから44年の37.6とかなり急速に収縮傾向を示しており、

図2 1人当り実収入額とエンゲル係数(府県別)

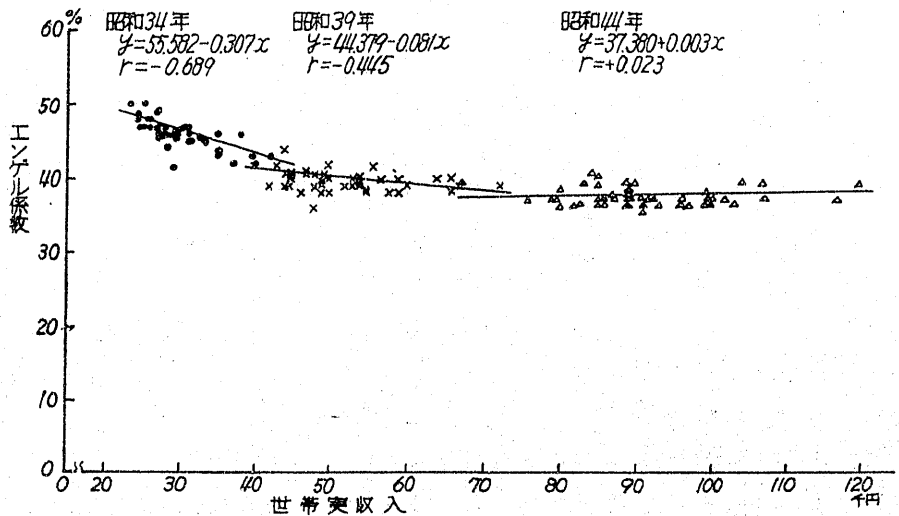
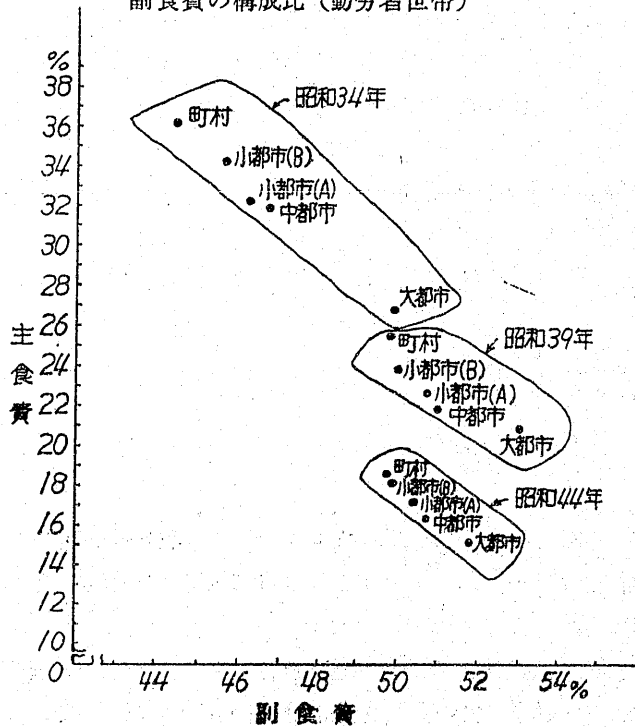


図3-1 人口規模別地域の食料費に占める主食費と副食費の構成比(勤労者世帯)



標準偏差も1.736から1.135へと収縮傾向が著しい。変化係数は34年から39年にかけてほとんど差がみられないが44年には30.2とかなり小さくなり、エンゲル係数の県間格差収縮の傾向をみせている。日本における戦後のエンゲル係数の高低はかなり歪められたものであり、必ずしも実行を反映しているとは考えられない。たとえばエンゲル係数と世帯実収入との相関をとってみると図2にみられるように昭和34年はなおかなり高いマイナスの相関を示している。しかし、39年にはマイナス0.445と低下しており、さらに44年にはプラス0.023とほとんど相関がなくなっている。

そこで、食行動の県間格差をあきらかにする1つの方法として、食料費に占める主食費と副食費の構成比を比較する方法である。食料費によって代表される食行動については、その中味を検討することによって直接具体的にその実体

と格差をあきらかにすることができる。

図3-1は、人口規模により区分された大都市、中都市、小都市、町村別に主食費および副食費の食料費に占めるそれぞれの構成比の相関を示したものである。人口規模が大きくなるに従って副食費の構成比が極めて規則的に大きくなっていることと、ならびにこのような地域間の相対的な分布関係は時間的経過にもなまってそのまま維持されながら右下の方向にシフトしている。いかえれば、人口規模が大きい地域ほど副食費の割合が高く、人口規模の小さい地域ほど主食費の占める割合が高いこととの関係パターンはほとんど変化していないということと、同時に地域間の格差が急速に収縮する傾向を示していることが注目される。特に、昭和44年においては各地域の副食費の占める割合が著しく接近する傾向を示しながら、主食費の割合においてなおかなり著しい地域格差が残存していることがみとめられる。

さらに全国を9地方に区分してこの主食費と副食費のそれぞれが食料費に占める割合の相関をとってみると図3-2の如くである。注目される点は、この9地方がその特徴によって3つのグループに区分することができるということである。関東、近畿およびその他7地方の3つのグループである。34年から44年にかけて、この3つのグループの相対的位置がほとんど変わっていない、そしてこの3つのグループの相互関係の位置がそのまま維持されながら右下の方向に低下を続け、相互のグループが著しく接近してきていることが注目される。主食費の割合がどの地域でも急激に低下している。しかし副食費の占める割合は39年から44年にかけてあまり変化を示していない。それから関東と近畿の間の相互関係は、これほどの変化にもかかわらず、そのまま維持されている。以上のことから全国的なはげしい変化と地域格差の収縮にもかかわらず、地方的特徴はなお強く残存していることを理解することができる。

以上の傾向は、人口規模別にみた地域においてもほぼ同様にみとめられる。

4 購入食料からみた県別構造

前節においてはエンゲル係数あるいは食料費、そしてまた主食費、副食費といった貨幣的、名目的指標の観点から県別あるいは都市別格差の分析を行なったが、ここではこれら貨幣支出の対象である購入食料という実体的指標から地域の特徴を考察してみることにする。

全国消費実態調査においては、1人あたり購入食料が品目別に県別に調査集計されている。県別に3年次の時系列的比較を行なはなければならないという必要上から、主要品目に限定することならば

図3-2 地方別食料費に占める主食費と副食費の構成比（勤労者世帯）

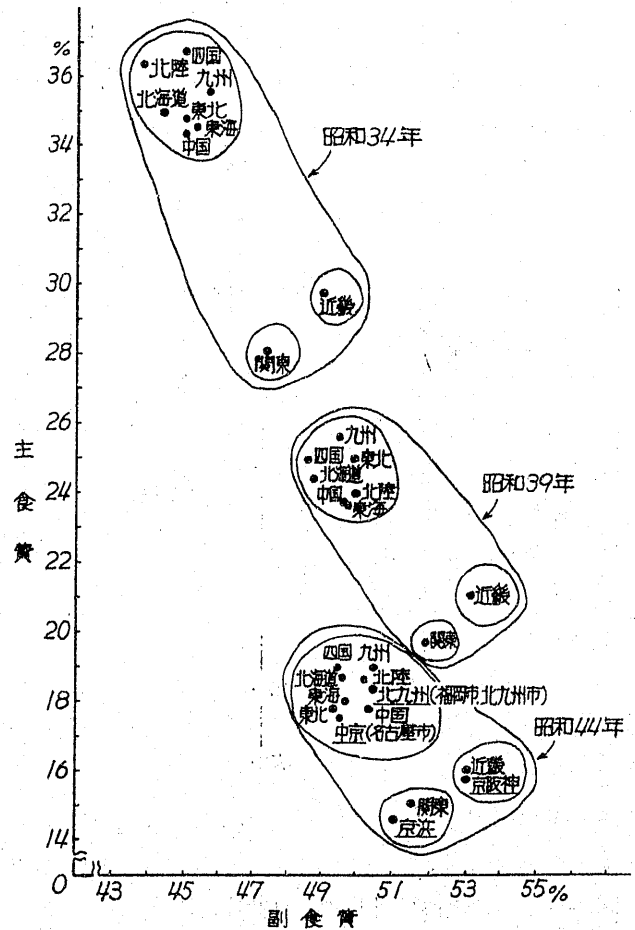


表7 都道府県別1人当り主要食品購入量

(全世界)

(東京を100とした指数)

都道府県	(1)米 類			(2)押 麦			(3)食 パ ン			(4)ゆでうどん			(5)干うどん			(6)外食費		
	昭34	39	44	昭34	39	44*	昭34	39	44*	昭34	39	44*	昭34	39	44*	昭34*	39*	44*
全 国	115	119	118	283	193	137	46	58	73	84	108	105	153	129	119	55	62	67
1北海道	138	137	137	117	67	85	30	45	48	91	92	83	160	171	206	37	45	50
2青森	138	131	120	61	100	144	28	29	33	54	83	99	189	143	137	27	30	40
3岩手	127	134	137	328	333	278	23	31	38	35	72	98	121	129	157	34	30	47
4宮城	113	110	123	472	650	378	28	37	35	54	78	99	162	200	171	36	40	55
5秋田	147	136	128	289	200	139	19	26	25	60	89	96	191	214	160	26	27	44
6山形	124	135	139	217	317	161	18	18	23	49	73	98	260	329	253	34	41	50
7福島	118	124	124	511	517	348	21	22	32	29	55	75	422	243	263	29	34	45
8茨城	106	121	120	428	250	196	32	38	41	18	44	53	346	257	241	42	49	55
9栃木	109	118	124	356	267	169	33	40	40	22	49	62	396	414	345	34	70	66
10群馬	106	111	117	506	167	177	21	26	33	80	101	127	673	371	265	48	52	66
11埼玉	103	109	104	272	100	143	42	64	67	81	92	113	412	386	221	64	67	72
12千葉	107	109	105	239	167	137	52	64	76	38	64	63	186	100	125	56	68	79
13東京	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
14神奈川	103	106	107	133	83	110	93	100	46	114	93	106	94	100	123	84	79	76
15新潟	130	129	131	44	50	96	26	31	36	31	56	79	239	186	178	39	48	57
16富山	137	136	140	28	33	46	17	31	55	62	90	90	88	86	61	50	48	57
17石川	145	135	144	33	133	70	48	28	42	124	106	77	45	43	53	41	53	60
18福井	150	140	152	100	67	90	45	23	37	48	58	75	42	57	48	37	64	50
19山梨	99	103	107	494	250	320	24	24	35	187	217	165	226	100	161	34	51	52
20長野	109	115	117	244	183	220	28	26	35	130	95	89	165	129	143	45	62	62
21岐阜	118	115	122	378	233	143	20	26	39	52	64	98	233	200	149	44	57	60
22静岡	105	117	127	611	367	330	31	35	52	60	84	90	159	100	119	43	51	63
23愛知	112	119	119	333	183	143	67	52	75	102	121	120	230	157	174	70	70	69
24三重	120	136	131	750	383	213	26	37	47	78	98	94	126	100	75	38	42	55
25滋賀	113	121	130	378	183	141	12	23	41	87	124	116	70	71	55	34	44	50
26京都	122	122	119	106	117	65	45	60	88	140	174	135	49	71	52	67	72	74
27大阪	114	116	116	100	33	46	56	78	98	128	160	145	44	57	55	81	73	78
28兵庫	112	112	109	128	50	82	78	90	116	121	157	140	55	71	66	70	72	68
29奈良	121	111	114	122	67	36	27	51	77	110	132	128	49	43	47	36	39	53
30和歌山	129	130	139	117	50	55	41	71	86	130	148	129	38	57	61	39	46	47
31鳥取	122	122	124	461	117	83	33	48	89	119	64	62	108	100	68	25	40	53
32島根	122	137	129	317	367	231	31	42	65	35	58	66	93	114	68	29	34	47
33岡山	129	117	117	217	117	85	32	60	84	82	143	125	157	143	135	45	67	59
34広島	119	124	123	222	100	88	51	86	101	93	139	124	84	114	82	52	63	63
35山口	118	131	127	256	117	114	46	71	95	116	142	99	62	57	41	44	43	51
36徳島	116	140	139	622	183	143	16	33	52	66	119	130	74	129	99	41	46	49
37香川	122	115	119	361	100	65	25	45	68	122	299	233	170	129	128	42	50	58
38愛媛	113	127	130	700	150	77	25	40	57	90	116	112	112	129	75	27	51	54
39高知	124	141	131	617	300	99	18	30	54	57	81	78	70	129	89	41	44	59
40福岡	126	128	129	300	250	157	26	37	53	79	109	91	136	114	61	41	50	54
41佐賀	117	134	126	556	467	387	21	27	41	84	134	89	223	157	147	28	33	42
42長崎	102	123	130	694	567	201	22	29	50	103	118	93	186	143	107	37	40	50
43熊本	117	125	132	650	417	331	26	23	48	62	56	64	128	114	68	32	42	41
44大分	113	126	131	656	400	230	22	39	43	60	69	67	138	129	54	41	34	45
45宮崎	111	118	118	817	650	279	21	32	37	60	85	84	121	71	77	29	38	42
46鹿児島	94	112	115	561	417	227	20	38	57	58	87	76	106	100	92	32	44	38

備考：*印は支出金額の指数である。

(表7つづき)

都道府県	(7) 牛乳			(8) バター			(9) チーズ			(10) 鶏卵			(11) 肉類計			(12) 牛肉		
	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34*	39*	44*	昭34	39	44
全 国	67	73	84	49	48	64	55	44	69	78	93	102	74	73	83	99	98	129
1北海道	74	55	64	104	76	99	100	56	93	58	69	90	52	49	59	55	38	21
2青森	40	37	42	33	31	51	25	25	43	49	64	78	49	42	48	28	29	17
3岩手	66	49	65	38	24	44	50	13	47	60	70	87	35	32	43	16	22	11
4宮城	69	65	74	42	45	59	50	31	60	73	85	99	49	44	58	28	22	23
5秋田	42	40	50	13	17	37	25	19	37	46	68	88	43	49	58	21	15	15
6山形	57	103	62	17	19	39	25	19	45	55	65	79	46	43	57	73	63	66
7福島	48	47	63	17	21	34	25	25	50	58	72	87	37	41	53	24	23	11
8茨城	82	69	81	21	31	40	25	38	66	64	82	89	42	54	56	23	33	14
9栃木	77	62	80	29	21	42	25	38	59	55	80	92	37	41	55	18	23	24
10群馬	59	68	78	13	24	39	—	19	57	52	73	77	30	38	48	30	28	19
11埼玉	75	81	92	33	45	64	50	50	80	79	86	91	53	59	70	45	44	42
12千葉	70	80	89	50	50	75	75	63	79	77	85	94	64	65	77	51	53	45
13東京	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
14神奈川	88	87	99	96	86	105	150	94	116	104	106	105	95	95	98	96	93	82
15新潟	59	59	71	21	21	34	50	25	58	61	75	90	38	43	50	41	46	25
16富山	70	70	76	25	17	36	25	19	50	61	61	80	54	45	55	80	78	94
17石川	60	62	65	17	24	39	25	25	48	60	69	76	49	52	56	93	100	132
18福井	61	66	75	17	17	31	25	13	46	56	74	94	43	50	64	80	111	185
19山梨	53	63	68	17	19	41	25	25	61	45	68	79	42	48	58	54	40	26
20長野	64	65	87	13	14	28	25	25	66	51	70	87	49	45	61	40	42	19
21岐阜	53	59	74	21	14	31	25	19	53	71	82	95	60	53	65	79	68	81
22静岡	68	72	89	25	29	47	25	25	56	61	85	94	50	55	68	49	41	43
23愛知	92	80	87	58	31	53	25	13	55	93	93	103	82	73	77	94	82	93
24三重	63	78	91	17	26	37	25	25	48	80	102	109	59	63	77	112	126	191
25滋賀	59	70	77	13	26	35	50	25	44	74	88	98	70	79	90	122	143	217
26京都	85	93	94	67	60	78	75	56	83	99	106	115	105	105	115	185	179	313
27大阪	81	90	94	46	48	72	75	44	60	113	116	116	136	115	116	215	189	295
28兵庫	85	89	91	88	76	85	75	56	72	110	113	118	116	104	109	183	161	248
29奈良	66	61	78	33	26	57	25	25	50	78	95	107	96	90	104	193	198	285
30和歌山	59	79	85	29	29	59	25	25	41	83	91	111	100	81	102	165	136	263
31鳥取	58	67	78	13	24	47	—	19	53	50	95	107	35	40	58	83	91	128
32島根	68	53	69	13	14	24	25	13	46	57	78	97	44	41	59	90	94	136
33岡山	57	76	90	21	31	46	25	31	55	81	95	107	61	63	75	117	129	191
34広島	65	75	91	38	38	63	25	44	62	85	109	115	81	81	96	166	159	257
35山口	59	57	82	33	26	41	25	31	59	84	104	119	70	67	79	134	148	219
36徳島	44	63	78	8	12	31	—	6	30	61	86	109	51	46	63	114	111	212
37香川	56	79	90	17	17	39	25	13	44	65	85	105	63	58	74	105	110	174
38愛媛	45	61	77	17	19	35	—	25	41	74	101	118	50	59	71	114	128	195
39高知	43	51	65	21	17	39	—	13	33	50	89	94	68	49	59	114	93	132
40福岡	44	55	75	29	24	38	50	31	54	106	104	116	83	73	89	120	118	173
41佐賀	40	46	63	13	17	23	25	19	48	60	95	101	62	58	66	89	91	115
42長崎	36	41	57	17	17	31	25	19	60	61	81	111	57	45	67	67	66	94
43熊本	45	49	64	17	12	22	25	25	37	65	92	107	67	56	69	108	108	161
44大分	50	47	70	17	19	29	25	19	37	76	94	115	69	58	70	131	143	191
45宮崎	42	49	65	8	12	21	—	19	42	60	88	113	57	57	76	94	101	138
46鹿児島	47	59	58	8	14	24	25	13	37	60	97	114	65	66	67	81	92	79

(3) 豚 肉			(4) 鶏 肉			(5) 鯨 肉			(6) ハ ム			(7) ソーセージ			(8) 生鮮魚介類			(9) 塩干魚介類		
昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44*	昭34	39	44*	昭34	39	44*	昭34	39	44*
55	59	69	104	101	97	160	225	207	93	80	80	49	61	73	133	114	95	90	95	85
70	59	80	32	28	43	137	246	206	54	51	53	18	37	52	211	171	96	145	164	155
91	55	61	36	37	34	140	283	274	46	52	54	30	32	44	326	183	111	126	107	111
74	51	59	52	26	35	43	121	149	22	32	47	18	25	34	179	133	98	118	117	107
78	62	77	88	37	35	154	392	460	37	48	62	33	46	52	188	140	96	65	73	73
64	61	65	108	109	95	80	288	198	39	43	56	46	24	44	255	185	116	98	132	140
40	43	66	44	34	48	54	150	182	27	58	63	9	31	57	160	117	89	121	124	121
66	59	73	52	54	50	37	129	103	37	48	58	12	31	43	137	120	82	70	89	92
70	77	81	64	68	58	46	79	385	39	62	56	21	46	54	133	117	83	85	79	83
50	53	69	44	30	43	49	142	98	29	63	70	46	46	59	97	92	70	82	84	85
41	49	63	16	17	31	37	71	61	29	51	52	27	42	55	98	81	64	92	90	96
65	73	86	56	43	64	71	83	77	56	69	73	36	63	69	84	81	76	86	88	82
75	77	93	68	65	73	60	108	97	59	71	78	39	66	76	118	113	93	78	97	88
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
95	100	105	60	79	95	123	142	129	107	106	107	112	109	111	117	106	99	92	102	88
49	48	70	20	17	25	29	50	40	37	66	62	18	36	49	121	115	81	109	114	138
31	26	46	52	29	33	40	108	70	49	47	58	18	19	52	133	134	111	86	114	73
10	23	34	24	42	35	69	92	70	61	48	59	33	36	58	193	149	122	67	77	69
7	17	26	36	41	57	14	50	20	63	73	80	36	31	61	109	93	85	123	55	64
46	58	75	20	46	49	103	192	132	37	53	51	15	31	44	103	108	67	103	113	93
49	51	71	52	46	68	163	196	151	32	32	52	18	37	53	80	89	69	120	120	107
35	32	49	184	126	112	97	175	138	56	71	77	27	34	48	83	84	61	62	74	58
49	60	74	112	87	84	31	79	60	61	74	71	30	51	52	128	113	91	70	93	82
59	51	65	264	171	117	109	175	127	98	85	84	46	54	73	98	90	76	72	69	62
16	26	35	132	137	113	134	183	159	63	84	80	15	32	55	125	110	93	101	125	76
16	29	38	68	105	103	143	229	241	102	108	96	33	63	71	108	99	90	107	114	94
29	48	45	124	143	123	134	217	182	105	108	113	76	100	93	129	113	112	115	107	100
55	61	61	152	134	111	237	313	301	137	129	103	100	112	99	125	102	114	100	89	84
36	56	58	144	146	123	197	288	314	124	112	96	67	97	105	120	94	102	91	79	74
15	27	46	84	105	92	274	379	405	100	95	97	49	53	78	116	95	97	99	94	86
22	34	42	172	149	131	237	342	394	127	97	103	61	59	78	168	131	119	92	103	68
12	20	37	60	84	93	51	88	109	24	51	56	12	27	52	169	162	92	80	104	62
16	22	37	96	83	95	60	129	107	27	38	55	18	14	50	187	147	83	59	90	59
18	24	35	148	137	113	169	300	316	54	59	61	27	29	54	135	114	108	76	80	65
24	42	46	92	121	117	206	317	309	68	80	81	70	66	82	147	113	111	62	67	54
22	32	39	72	103	115	317	429	383	73	78	79	33	27	68	159	141	96	65	75	51
8	19	24	60	72	86	66	171	116	49	34	54	24	14	42	117	98	83	86	97	63
15	21	39	148	155	124	160	183	228	51	59	68	67	25	48	122	98	93	63	67	62
10	28	35	88	134	126	109	271	177	37	58	59	21	15	42	152	116	97	74	88	52
22	19	26	176	124	90	411	567	502	32	33	38	27	12	46	141	134	110	115	141	83
48	46	58	164	197	190	509	596	565	83	74	76	30	44	70	145	115	91	68	75	60
41	42	49	112	142	141	446	625	672	37	59	56	12	14	34	147	124	79	58	78	48
52	39	61	100	95	124	414	458	399	37	49	59	21	20	40	153	126	82	58	68	48
52	42	51	92	133	148	349	388	484	63	58	56	30	27	66	123	103	78	62	80	51
30	34	39	124	115	131	291	354	403	61	52	56	30	22	50	141	118	91	67	88	49
44	50	61	124	154	203	129	175	196	49	64	60	15	19	41	143	115	85	71	97	56
92	76	82	148	165	154	46	63	46	42	70	48	15	14	21	160	120	80	54	68	48

表 8 主要食品 1 人当り購入量の指数水準別にみた都道府県別分布 (全世帯)

(東京を 100 とした指数)

昭34, 39, 44年

指数水準	(1) 米 類			(2) 押 麦			(3) 食 パ ン			(4) ゆでうどん			(5) 干うどん			(6) 外 食 費		
	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44
800 ~				1														
700 ~				2														
600 ~				6									1					
500 ~				4	2													
400 ~				4	4								2	1				
300 ~				8	6	6							2	3	1			
200 ~				8	6	8					2	1	6	5	6			
150 ~	1		1		7	5				1	3	1	10	4	6			
140 ~	2	2	2			6				1	3	2		3	3			
130 ~	4	12	13	1	1	2				2	3	2	2		2			
120 ~	12	12	14	2						4	2	6	4	7	3			
110 ~	15	15	11	2	4	2				4	3	3	1	4	1			
100 ~	9	4	4	3	4				1	1		2	3	1				
90 ~	2					3	1	1	2	3	6	11	2		2			
80 ~					1	5			4	5	6	4	2	1	2		2	
70 ~						2	1	3	3	2	3	6	3	4	3	2	2	5
60 ~				1	3	2	1	4	3	7	4	6	1		7	2	2	9
50 ~					3	1	3	2	7	5	5	1	1	4	5	3	3	19
40 ~				1		2	6	6	10	2			5	2	3	13	13	11
30 ~				1	2	1	7	13	12	4	2		1			15	17	1
20 ~				1			20	13	2	2						8	6	
10 ~							6	1		1								
~ 9																		

備考：数値は県の数を示してある。

表 9 主要食品 1 人当り購入量の指数水準別、都道府県別分布の 100 分比 (全世帯)

(東京を 100 とした指数)

昭34, 39, 44年

指数水準	(1) 米 類			(2) 押 麦			(3) 食 パ ン			(4) ゆでうどん			(5) 干うどん			(6) 外 食 費		
	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44
800 ~				2.2														
700 ~				4.4														
600 ~				13.3	4.4								2.2					
500 ~				8.9	4.4													
400 ~				8.9	8.9								4.4	2.2				
300 ~				17.8	13.3	13.3							4.4	6.7	2.2			
200 ~				17.8	13.3	17.8					4.4	2.2	13.3	11.1	13.3			
150 ~	2.2		2.2		15.6	11.1				2.2	6.7	2.2	22.2	8.9	13.3			
140 ~	4.4	4.4	4.4			13.3				2.2	6.7	4.4		6.7	6.7			
130 ~	8.9	26.7	28.9	2.2	2.2	4.4				4.4	6.7	4.4	4.4		4.4			
120 ~	26.7	26.7	31.1	4.4						8.9	4.4	13.3	8.9	15.6	6.7			
110 ~	33.3	33.3	24.4	4.4	8.9	4.4			2.2	8.9	6.7	6.7	2.2	8.9	2.2			
100 ~	20.0	8.9	8.9	6.7	8.9			2.2	2.2	4.4	6.7	2.2	4.4	13.3	2.2			
90 ~	4.4				6.7		2.2	2.2	4.4	6.7	13.3	24.4	4.4		4.4			
80 ~					2.2	11.1		2.2	8.9	11.1	13.3	8.9	4.4	2.2	4.4	4.4	4.4	
70 ~					4.4		2.2	6.7	6.7	4.4	6.7	13.3	6.7	8.9	6.7	4.4	4.4	11.1
60 ~				2.2	6.7	4.4	2.2	8.9	6.7	15.6	8.9	13.3	2.2		15.6	4.4	4.4	20.0
50 ~					6.7	2.2	6.7	4.4	15.6	11.1	11.1	2.2	2.2	8.9	11.1	6.7	6.7	42.2
40 ~				2.2		4.4	13.3	13.3	22.2	4.4	4.4		11.1	4.4	6.7	28.9	28.9	24.4
30 ~				2.2	4.4	2.2	15.6	28.9	26.7	8.9			2.2			33.3	37.8	2.2
20 ~				2.2			44.4	28.9	4.4	4.4						17.8	13.3	
10 ~							13.3	2.2		2.2								
~ 9																		
総 数	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

備考：数値は百分比を示したもの。

(つづき)

(7) 牛乳			(8) バター			(9) チーズ			(10) 鶏卵			(11) 肉類計			(12) 牛肉			(13) 豚肉			
昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	
												1					1				
						1									5	5	8				
								1	2	2	12	1	1	2	2	2	2	5	5	4	
	1		1		1	1			2	7	10	2	2	3	2	5	4			1	1
1	2	9	1	1	1		1	1	2	9	12	2	2	3	5	6	3	3			1
5	5	8	1	1	1			2	5	13	6	3	2	1	5	1	2				4
5	8	13		2	3	4		2	8	7	5	2	3	10	2	1	1	5	4		6
10	12	11	1	1	2		1	7	13	7		9	5	9	1	3	1	3	4		9
12	8	3	2	1	5	6	4	13	10			9	12	14	3	1		6	10		4
11	8	1	2	3	8		2	13	3			10	16	3	4	5	3	9	8		7
1	1		6	5	17		6	6				6	2		1	2	3	4	5	10	
			10	14	7	27	13								5	6	5	5	10		3
			19	18		6	17								2	1	7	9	3		
			2				1										2	2			

(つづき)

(7) 牛乳			(8) バター			(9) チーズ			(10) 鶏卵			(11) 肉類計			(12) 牛肉			(13) 豚肉			
昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	
																	2.2				
															2.2		17.8				
						2.2									11.1	11.1	17.8				
								2.2	4.4	4.4	26.7	2.2	2.2	4.4	4.4	2.2	8.9				
	2.2		2.2		2.2	2.2			4.4	15.6	22.2	4.4	4.4	6.7	11.4	8.9	2.2			2.2	2.2
2.2	4.4	20.0	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	4.4	20.0	26.7	4.4	4.4	6.7	4.4	6.7	2.2	6.7			2.2
11.1	11.1	17.8	2.2	2.2	2.2		4.4	4.4	11.1	28.9	13.3	6.7	4.4	2.2	11.1	2.2	4.4	6.7			8.9
11.1	17.8	28.9		4.4	6.7	8.9	4.4	4.4	17.8	15.6	11.1	4.4	6.7	22.2	4.4	2.2	2.2	11.1	8.9	13.3	
11.1	26.7	24.4	2.2	2.2	4.4	2.2	15.6	28.9	15.6			20.0	11.1	20.0	2.2	6.7	2.2	6.7	8.9	20.0	
22.2	17.8	6.7	4.4	6.7	11.1	13.3	8.9	28.9	22.2			20.0	26.7	31.1	6.7	2.2		13.3	22.2	8.9	
26.7	17.8	2.2	4.4	11.1	17.8		4.4	28.9	6.7			22.2	35.6	6.7	8.9	11.1	6.7	20.0	17.8	15.6	
24.4	2.2		13.3	31.1	37.8		13.3	13.3				13.3	4.4		2.2	4.4		8.9	11.1	22.2	
2.2			11.1	40.0	15.6	60.0	28.9								11.1	13.1	11.1	11.1	22.2	6.7	
			42.2				37.8								4.4	2.2	15.6	20.0	6.7		
			4.4			13.3	2.2										4.4				
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

(表8つづき)

指数水準	(14) 鶏 肉			(15) 鯨 肉			(16) ハ ム			(17) ソーセージ			(18) 生鮮魚介類			(19) 塩干魚介類		
	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44
800 ~																		
700 ~																		
600 ~						1												
500 ~					1	2												
400 ~					3	2												
300 ~					2	8												
200 ~			1		5	7							1					
150 ~			2		5	9							11	4				
140 ~			4		2	2							6	4			1	1
130 ~			5		3	2			1				4	4			1	1
120 ~			3		2	3			2				8	4			4	3
110 ~			1		7	2			1	1		1	4	13			3	5
100 ~			4		3	2			4	3		1	3	4			5	5
90 ~	3	1	6		1	1			1	2		1	2	8	15		6	7
80 ~		3	2		1	2			1	3			1	4	10		6	8
70 ~	5	2	1		1	3			1	7		2	1	5			7	8
60 ~	3	2	2		4	1			7	5		3	4	7			9	5
50 ~	5	1	3		2	2			6	12		4	4	12			4	1
40 ~	9	5	4		5				5	6		4	5	12				
30 ~	4	4	6		3				11	5		12	11	2				
20 ~	5	3	1		1				6			8	9	1				
10 ~	9	2			1							13	8					
~ 9	2											1						4

(表9つづき)

指数水準	(14) 鶏 肉			(15) 鯨 肉			(16) ハ ム			(17) ソーセージ			(18) 生鮮魚介類			(19) 塩干魚介類		
	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44	昭34	39	44
800 ~																		
700 ~																		
600 ~																		
500 ~						2.2												
400 ~					6.7	4.4												
300 ~					4.4	17.8									2.2			
200 ~			2.2		11.1	15.6									4.4			
150 ~		11.1	4.4		11.1	20.0							24.4	8.9			2.2	2.2
140 ~		8.9	4.4		4.4	4.4							13.3	8.9			2.2	2.2
130 ~		11.1	4.4		6.7	4.4			2.2				8.9	8.9			2.2	2.2
120 ~		6.7	11.1		4.4	6.7			4.4	2.2			17.8	8.9	2.2		8.9	6.7
110 ~		2.2	15.6			2.2			2.2	2.2			8.9	28.9	17.8		6.7	11.1
100 ~		8.9	2.2		6.7	4.4			8.9	6.7	6.7		6.7	8.9	4.4		11.1	11.1
90 ~	6.7	2.2	13.3		2.2	2.2			2.2	4.4	6.7		4.4	17.8	33.3		13.3	15.6
80 ~		6.7	4.4		2.2	4.4			2.2	6.7	8.9		2.2	6.7	8.9		13.3	17.8
70 ~	11.1	4.4	2.2		2.2	6.7			2.2	15.6	15.6		4.4	2.2	13.3		15.6	17.8
60 ~	6.7	4.4	4.4		8.9	2.2			15.6	11.1	13.3		6.7	8.9	15.6		20.0	11.1
50 ~	11.1	2.2	6.7		4.4	4.4			13.3	26.7	40.0		8.9	26.7			8.9	2.2
40 ~	20.0	11.1	8.9		11.1				11.1	13.3	4.4		8.9	11.1	26.7			8.9
30 ~	8.9	8.9	13.3		6.7				24.4	11.1	2.2		26.7	24.4	4.4			
20 ~	11.1	6.7	2.2		2.2	2.2			13.3				17.8	20.0	2.2			
10 ~	20.0	4.4			2.2								28.9	17.8				
~ 9	4.4												2.2					
総 数	100	100	100		100	100			100	100	100		100	100	100		100	100

に34年、39年の購入食料の量的表示と44年の貨幣的表示の異質性を克服する1つの方法として各年次とも東京都を100とした指数化の方法をとった。

そこで1人あたり購入食料の主要品目を取り、県別にそして昭和34、39、44年の3年次について東京都を100とした指数を計算してみると表7の通りである。この表は非常に複雑でみにくいため、主要品目ごとに指標水準分類を設けて、それぞれの指標水準にふくまれる県の分布数を計算してきた。これを示したものが表8である。東京都の水準100を中心にしてその上下にどのように分布しているか、そしてそれが昭和34、39、44年の期間にどのように変っていったかを示したものである。さらに、この県別分布を、45県を100としてその割合で示したものが表9である。

まず、表9によって、主要品目の指数水準からみてどのように県間に分布しているかをみて、そのおもな特徴なり傾向なりについてみると次の如くである。

第1は指数が100以上に集中している食品があげられる。これは米類のみである。ただ、わずかに昭和34年において山梨と鹿児島のみが東京よりも若干購入量が少なかったにすぎない。しかし、39年、44年にはすべての県が東京都よりも多く購入している。

第2は指数がほとんど100以下であるような品目であるが、これは食パン、外食費それから牛乳、バター、肉類、豚肉、ソーセージといったもので、いわば都会的な消費生活をあらわすようなものである。これは一般に東京都がもっとも高くなっている。しかし、このような食品もこの10年間に購入量が全般に増大する傾向を示している。食パンなどはその典型的なものであって、44年には指数が100以上の県が急速に増大してきている。

第3は、指数が100を中心として上下に比較的均等に分散している食品である。たとえば、ゆでうどん、干うどん、牛肉、鶏肉、鯨肉、生鮮魚介類等にみられる。これらの品目は、購入量の多い県もあれば、少ない県もあり、格差が大きいことを示している。しかし、これらの品目も一般にその格差が収縮する傾向がみられる。たとえばゆでうどんでは昭和34年には上下に広く分散していたのが、39年44年にはその分散の幅が収縮してきている。干うどんも同様である。また、鶏肉などは昭和34年にはすべての県が100以下であったが、39年、44年には100以上の県が増大すると共に非常に少ない県も減少している。生鮮魚介類は鶏肉とは反対の傾向を示している。昭和34年にはほとんどの県が100以上であったが、昭和44年にはむしろ逆転して100以下の県の方が多くなっている。もっともこのばあい100に近い80以上、90以上に55%の県が集中している。

第4に、この10年間に著しく変化したものをあげることができる。たとえば押麦は昭和34年には圧倒的に100以上の指数の県が多かったが、次第に100以下の県が増加し、著しく高い県が減少し、44年には均等分布の傾向が一層進んできた。それから鶏卵は押麦とは反対に昭和34年には100以下の県が圧倒的に多かったのが、その後次第に100以上の県の増加、100以下の県の減少が生じ、44年には、100以上と100以下にほぼ均等分布すると共に100に近い水準に著しく集中するに至った。これは典型的な格差収縮の例である。このように、主要食品の購入状況を東京を100とした指数で県の分布をみてみると県による格差は一般的に収縮の傾向にあり、かつ、このような傾向は特に39年以降において著しい加速的発展を示したことが特徴である。

そこで次に具体的にどの県でどのような食品が多く購入されるかどうかについてみてみよう(表7参照)。まず、米類についてみると140前後の高水準指数を示しているのは東北、北陸と四国(香川を除く)の諸県であるが注目すべき点は、購入量指数はむしろ増大する傾向がみられることである。このばあい必ずしも購入量の絶対量の増大を意味するわけでないことはいうまでもない。北関東なども高い水準ではなかったが指数が増大する傾向を示している。

表 10 主要食品購入量指数の平均値、標準偏差、変化係数 (都道府県別)

(全世帯)

主要食品		(1) 米 類 (1 kg)	(2) 押 麦 (1 kg)	(3) 食 パ ン (100 g)	(4) ゆ で う ど ん (100 g)	(5) 干 う ど ん (100 g)	(6) 外 食 費 (円)	(7) 牛 乳 (1本180cc)	(8) パ タ ト (100 g)	(9) チ ロ ズ (100 g)	(10) 鶏 卵 (1個)
昭和 34 年	平均値	8.178	0.626	2.142	4.113	1.982	114.1	4.031	0.0728	0.0141	6.245
	標準偏差	0.880	0.394	1.241	1.845	1.461	61.1	1.000	0.0549	0.0119	1.590
	変化係数%	10.76	62.94	57.94	44.86	73.71	53.57	24.81	75.41	84.40	25.46
昭和 39 年	平均値	7.375	0.136	2.141	3.671	0.998	255.9	7.277	0.1259	0.0483	11.783
	標準偏差	0.634	0.098	1.038	1.647	0.610	75.9	1.671	0.0660	0.0324	2.731
	変化係数%	8.60	72.06	48.46	44.87	61.15	29.65	22.96	52.42	67.08	23.18
昭和 44 年	平均値	5.696	—	—	—	—	552.8	10.118	0.1583	0.0560	15.526
	標準偏差	0.504	—	—	—	—	122.2	1.735	0.0706	0.0527	1.963
	変化係数%	8.85	—	—	—	—	22.10	17.15	44.60	94.11	12.64

主要食品		(11) 肉 類 計 (円)	(12) 牛 肉 (100 g)	(13) 豚 肉 (100 g)	(14) 鶏 肉 (100 g)	(15) 鯨 肉 (100 g)	(16) ハ ム (100 g)	(17) ソー セイ ジ (100 g)	(18) 生 鮮 魚 介 類 (100 g)	(19) 塩 干 魚 介 類 (100 g)
昭和 34 年	平均値	117.5	1.235	0.567	0.232	0.523	0.242	0.118	16.00	3.298
	標準偏差	43.6	0.686	0.331	0.131	0.425	0.121	0.080	5.077	0.841
	変化係数%	37.09	55.55	58.38	56.47	81.26	50.00	67.80	31.73	25.50
昭和 39 年	平均値	292.2	1.570	1.339	1.339	0.548	0.483	0.247	15.04	2.731
	標準偏差	96.3	0.353	0.588	0.587	0.349	0.168	0.195	3.131	0.632
	変化係数%	32.94	22.48	43.91	43.84	63.69	34.78	78.95	20.82	23.30
昭和 44 年	平均値	588.7	1.377	2.212	1.586	0.364	—	—	—	—
	標準偏差	153.2	0.230	0.768	0.731	0.252	—	—	—	—
	変化係数%	26.02	16.70	34.71	46.09	69.23	—	—	—	—

備考：実数より算出したものである。

数値のないものはその年次における購入量がとれないため。

次に押麦についてみると、これには非常に大きな格差がみとめられる。九州および四国において特に高く、昭和34年当時では東京の5倍ないし8倍（宮崎）の高さにあった。次いで東北の福島、宮城および北関東では4倍ないし5倍の高水準がみられた。最近ではこの指数もかなり低下を示してきたが、これらの地方ではなお3倍ないし4倍の高水準にあるところも少なくない。

食パンは東京、兵庫、大阪、広島が100前後にあり、その他の県ではすべて100以下の低水準にあるが、低い県でもこの10年間にほとんど例外なく指数が増大しており、中には2倍ないし3倍にふえているところも少なくない。

次に興味があるのは、ゆでうどんと干うどんである。ゆでうどんは関西特に近畿において高い指数を示しているが、干うどんは特に東北の山形、福島、北関東において高くなっている。じゅうらい

図 4-1 1人当り消費支出額と肉類購入金額（府県別）

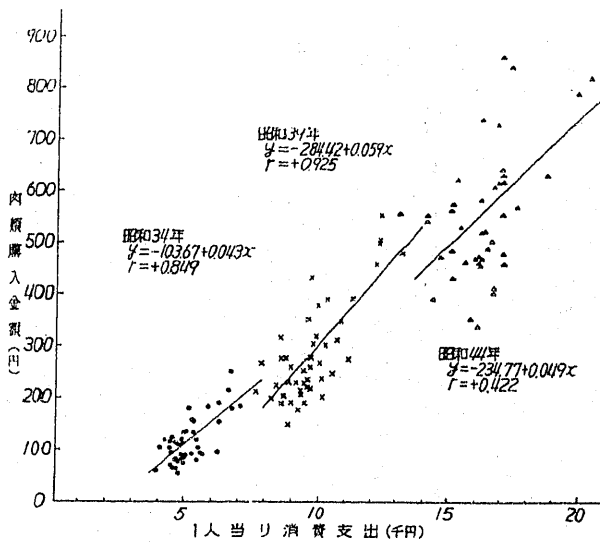


図 4-3 1人当り消費支出額と生鮮魚介類購入金額（府県別）

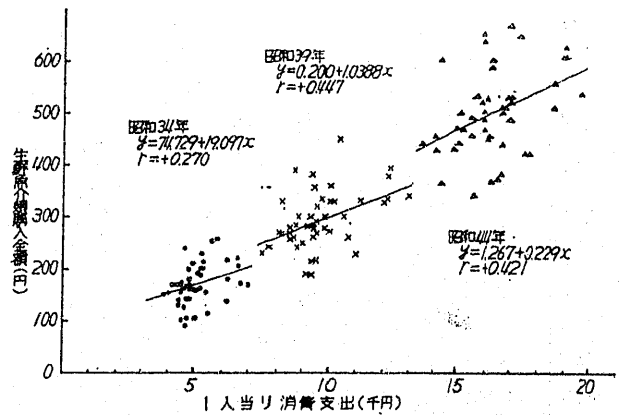


図 4-2 1人当り消費支出額と牛乳購入量（府県別）

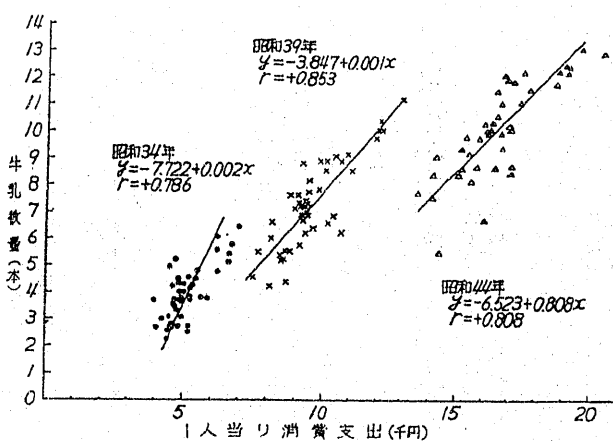
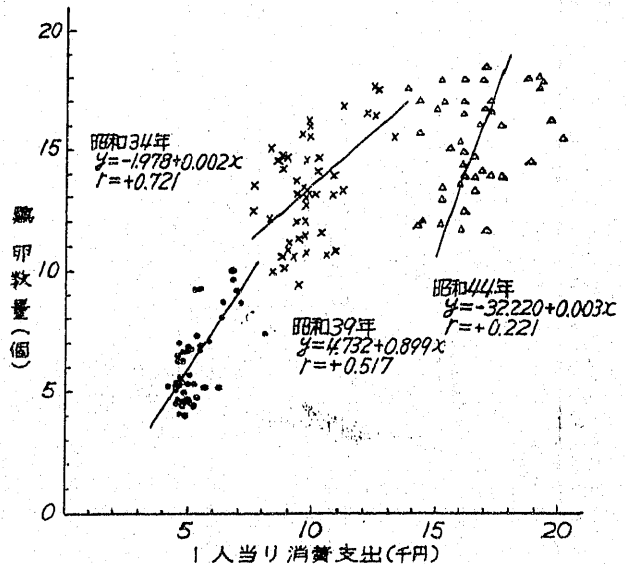


図 4-4 1人当り消費支出額と鶏卵購入量（府県別）



200以上の高い指数を示していた愛知、岐阜が低減する傾向を示していることが注目される。

肉類は京阪神を中心とする近畿地域のみが100を超えた指数を示していること、またその他の低い県でも指数が上昇する傾向が一般にみとめられる。牛肉だけについてみると関西が全般に高く、特に京阪神地域は200ないし300の高水準指数を示している。しかし東日本では全般に著しく低くなっている。鶏肉は特に九州、四国において高く、北陸、東北で著しく低くなっている。鯨肉についても地域によって著しい差異がみられるが、これは一般に増大する傾向があることが特徴的である。

その他の食品については省略するが、県別にみた1人あたり購入量の指数格差は、全般的に収縮の傾向にありながら、なおそこには県による著しい格差があることが注目される。

次に主要食品の都道府県別の（1か月1人当り購入量および支出金額）平均値、標準偏差、変化係数および主要食料品と消費支出との相関関係を昭和34年、39年、44年の3時点についての変化について示すと次の如くである。まず表10に示されている数値についてみると普遍的な購入食品である米類の標準偏差は3年次間に縮小傾向を持続しており、変化係数も昭和34年の10.8%から9%以下と小さくなっている。また外食費をみるとこの変化は非常に大きいのである。標準偏差をみると34年の

図 4-5 1人当り消費支出額と食パン購入金額(府県別)

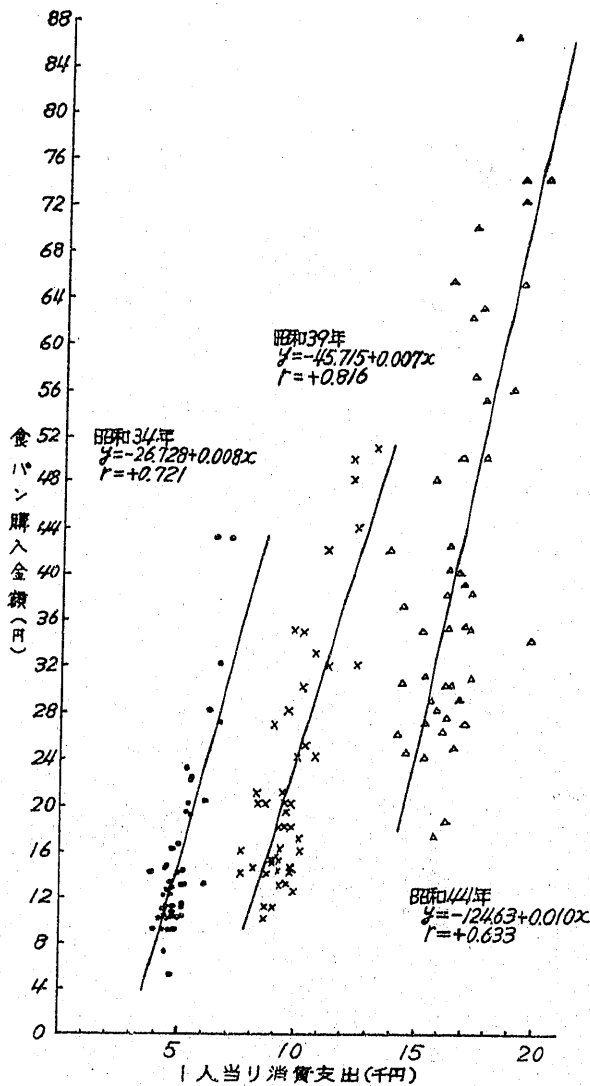


図 4-6 1人当り消費支出額と押麦購入金額(府県別)

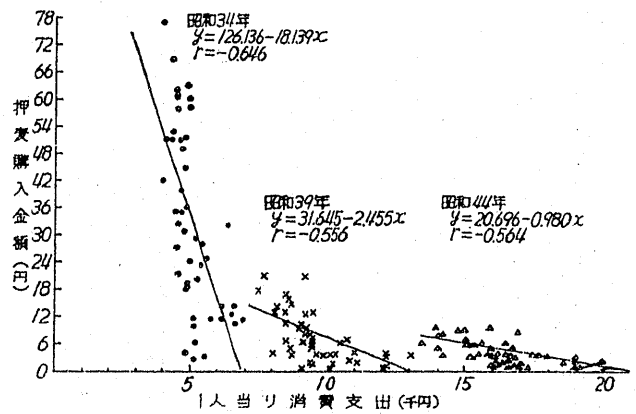
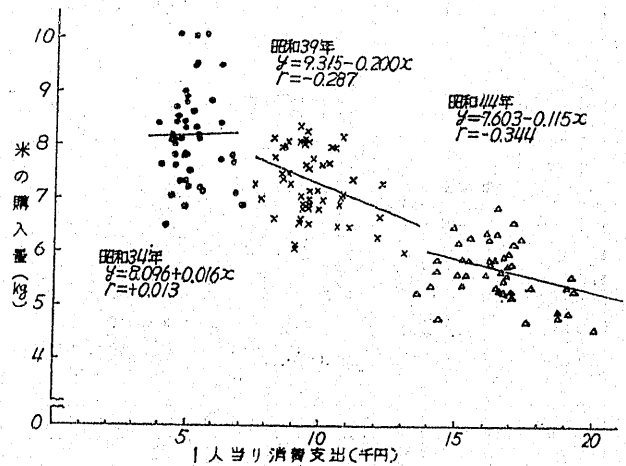


図 4-7 1人当り消費支出額と米の購入量(府県別)



61円から39年の76円、44年の122円と増大している。しかし、変化係数をみると34年は53.6%、39年29.7%、44年22.1%へと小さくなり格差の著しい収縮傾向がみられる。全般に格差収縮の傾向にあるが20%以下に格差が収縮しているものは鶏卵、牛乳および肉類の中の牛肉にみられる。

特に鶏卵では12.6%の収縮がみられる。しかしチーズはなお著しい格差が示される。この他に県間格差を残しているものとして鯨肉、鶏肉、バター、豚肉等である。ところで動物性蛋白源としてもっとも重要な意義をもっている肉類について消費支出(1人1ヶ月当り)との相関をとってみると図4-1に示した如く、34年にはプラス0.849、39年プラス0.925と高い相関度を示しているが44年になると相関係数はプラス0.422と多少下り実質的に購入量がふえなくとも誰でもが購入する様になったと考えられる。さらに参考のためにその他の主要な食品の購入量あるいは購入金額と消費支出との相関度を示すと図4-2、図4-3、図4-4、図4-5、図4-6、図4-7の如くである。

5 食行動地域格差の要因

次に食料消費の実態が地域によって異なる要因について若干の分析を行なってみよう。この点につ

いては、一般に所得水準の格差がその主要因としてあげられるが、たしかに所得の大小が食料消費の内容に与える影響は大きいと考えられる。

しかし、食料消費の内容に影響を与える要因は、所得の大小だけではない。地域の伝統的な嗜好とか、食料品価格の変化とか、新食品の導入とその普及の度合等色々な要因が考えられる。要するに、所得水準の高低という要因と共に多くの要因が考慮されなければならない。

そこで今かりに大都市、中都市、小都市（AとB）、町村における食料購入量を、大都市を100として指数化し、さらに実収入階層別に比較して、所得水準の影響を考慮してみると次の如くである。表12は昭和34年と39年の消費実態調査により、実収入が2.5万～3.0万の階層と4.0万～4.5万円の2個の階層に分け、それぞれの品目の購入量について大都市を100とした指数であらわしたものである。同じ所得水準でコントロールすることにより、所得以外の要因のあることをみてみようとしたものである。しかし、ここでは比較可能な昭和34年と39年のみをとったのは、44年は実収入水準による表章がないためである。

まず、第1は実収入水準にも地域にも無関係といってもいいような普遍的な消費性向をもっている米類をあげることができる。昭和34年、39年を通じて実収入水準や都市規模別の区分にほとんど関係なく、110前後の指数水準にあることが分かる。これは、米類が国民的食料であるという性質をもっている以上当然であるといえよう。

第2のパターンとしては、地域の特性の影響の強いものをあげることができる。たとえば押麦である。昭和34年の数値をみると、人口規模の大きい都市ほど小さく、町村で最大となっている。実収入水準でも2.5万から3.0万円の階層と4.0万から4.5万円の階層との間で、この地域格差はそのまま残存している。

つまり、収入水準に関係なく人口規模が小さくなるに従って増大し、町村では350前後の最高値を示している。しかし、注目しなければならない点は、昭和39年において大きな変化を示してきていることである。39年の2.5万から3.0万円の低収入階層の購入量は、4.0万～4.5万円の階層よりも一般に大きくなってきている。ことに低所得水準の小都市Bおよび町村では、高所得水準の小都市B、町村の3倍ないし5倍の大きさになっている。昭和34年では、所得水準に関係なく、地域性が格差の主要因であったのに対し、39年になると、低所得水準の次元における地域性と高所得水準での地域格差の収縮という複合的な構造に変ってきたというように理解することができよう。

さらに地域の特性の著しいものとして煮干をあげることができよう。昭和39年において、これら2個の所得水準のいかんにかかわらず、人口の小さい地域ほど購入量が多くなっている。町村の2.5～3.0万円の所得階層では約200、そして4.0～4.5万円の所得階層でも約190となっており、他のどの都市よりも大きくなっている。昭和34年の4.0～4.5万円階層では地域間にあまり著しい差がみられなかった39年にはかなり明確にその格差があらわれている。

また、干うどんなどは、このような地域間格差が、34年から39年にかけて持続している典型的な事例である。もっとも、このばあいでも昭和34年に比較して39年の高所得層ではあまり差がなくなるといって変化を示してきている。ここで興味のあることはゆでうどんという本質的には同じものである干うどんがすべての地域において100以上つまり大都市よりも多いこと、特に小都市、町村の低所得層で200、300の高い値を示しているのに対して、ゆでうどんは、昭和34年、39年を通じて、また所得水準や地域にかかわらずすべて大都市よりも少ない。そしてまた、39年において4.0万から4.5万円の高所得水準層においてはどの地域でも大都市に近い90以上の水準に接近してきているのに対して、2.5万から3.0万円の低所得層ではどの都市でも非常に少なくなっている。つまり、ゆでうどんでは所得

表 11 都市規模別の消費格差（大都市を100とした指数）（勤労者世帯）

年次	昭和34年				昭和39年				昭和44年			
	中	小A	小B	町村	中	小A	小B	町村	中	小A	小B	町村
世帯人員	4.36	4.33	4.32	4.39	4.03	4.08	4.12	4.06	3.83	3.88	3.89	3.86
米内	115	113	114	115	108	110	115	117	108	111	116	116
地米(配)	101	108	100	93	121	126	130	129	152	160	178	174
地米(非)	146	127	143	159	87	84	91	95	75	76	72	76
徳用米	49	51	37	30	100	200	400	800	193	196	205	316
押麦	246	306	364	484	212	253	271	382	133	156	178	189
食あんぱん	46	46	36	27	64	60	49	43	75	76	55	48
サンド小麦	87	70	58	59	137	163	163	151	92	94	78	61
小も	114	131	129	152	44	41	26	22	57	50	36	21
ゆでうどん	66	63	56	31	69	62	51	33	74	74	53	45
干マ即生	92	76	68	59	90	87	83	72	96	98	92	86
席魚介	148	208	216	273	139	183	203	234	121	132	157	168
あさだぶ	74	76	63	50	85	71	66	58	100	70	70	70
じばまいり	139	135	126	130	90	92	89	81	103	106	103	102
あさだぶ	148	131	139	154	114	121	134	133	96	103	96	95
ん	162	133	135	145	135	135	149	147	118	114	133	138
い塩煮塩か	110	130	137	140	104	123	124	141	77	84	69	69
干魚介	169	124	93	103	112	98	97	82	102	86	85	80
か	82	68	67	64	82	80	104	78	94	89	90	78
た牛豚鶏鯨	136	159	141	155	116	112	115	120	101	97	101	106
ら	74	70	70	66	100	103	105	112	95	93	98	94
肉肉肉	159	155	165	174	136	151	179	203	137	137	163	178
肉	73	74	66	61	101	92	92	79	94	92	93	95
肉	64	73	77	50	55	46	50	50	81	86	86	71
ハソベ乳鶏	57	51	34	34	59	51	51	39	76	71	69	61
セコ	78	65	60	51	77	72	65	50	78	75	63	53
ムジン類卵	72	65	57	44	77	69	63	54	88	87	74	69
卵	77	66	64	52	80	76	69	58	88	90	74	73
乳	143	118	114	127	120	116	123	130	124	107	119	139
ズ草	71	61	52	47	78	76	68	54	80	83	68	61
べん	47	40	33	26	64	57	44	36	73	75	60	49
草	77	80	59	47	72	75	63	53	68	68	38	35
う	74	70	61	54	81	78	71	62	90	90	82	76
草	80	79	64	59	89	87	84	70	98	97	92	88
は甘馬大人	72	74	66	60	80	77	68	63	90	91	80	73
うぎり	52	46	32	28	65	54	38	36	75	69	49	48
トン	58	58	42	32	68	58	44	38	84	89	69	64
トン	85	77	64	59	88	75	65	57	94	91	88	85
トン	81	73	62	51	82	74	62	47	84	79	61	55
は甘馬大人	112	123	133	116	124	114	124	107	113	107	117	115
いよ根	149	161	154	127	120	125	119	114	105	102	98	84
参	89	81	69	63	88	82	69	56	88	75	61	52
参	142	168	159	123	124	109	112	84	103	92	94	74
参	90	89	78	74	92	86	84	71	94	94	84	77
ご玉ぎトビ	131	136	134	132	117	117	133	111	102	105	100	102
ぼねう	91	84	73	67	95	91	82	80	86	81	78	74
ママ	73	72	70	48	71	64	62	45	76	76	62	55
ママ	95	88	66	52	98	76	67	58	70	63	44	41
ママ	63	71	55	44	82	69	430	419	80	80	63	57

(表11つづき)

年次	昭和34年				昭和39年				昭和44年			
	中	小A	小B	町村	中	小A	小B	町村	中	小A	小B	町村
大豆	142	197	229	216	122	128	161	100	80	100	120	80
乾し豆	103	110	111	124	108	108	109	111	94	100	100	94
乾しいのた	88	81	75	69	91	87	96	70	81	90	77	87
乾しいのた	65	67	58	53	82	86	82	76	95	99	94	99
豆腐	106	108	86	87	97	87	90	85	88	92	86	87
揚げ	74	75	82	76	78	86	90	87	88	96	96	98
揚げ	76	71	61	59	72	70	63	58	67	67	60	53
揚げ	74	72	66	61	77	88	90	86	90	86	80	76
揚げ	97	86	102	103	101	104	98	97	97	108	94	92
揚げ	149	106	111	102	112	104	104	88	111	108	111	108
魚介	70	78	87	85	92	103	105	125	79	86	79	79
肉の	66	74	66	60	100	96	108	108	70	70	58	55
野菜	71	93	68	68	72	72	64	60	76	82	71	69
野菜	118	100	93	70	118	116	124	103	105	103	108	115
野菜	44	35	26	18	61	56	45	28	70	68	51	38
ココ	62	69	63	50	80	88	87	72	78	84	73	69
カ食	33	37	25	13	55	60	46	30	62	69	55	45
しみ	165	205	216	263	156	174	196	256	162	170	245	269
しみ	123	129	141	141	91	91	89	88	118	122	134	140
しみ	126	119	115	104	111	108	105	107	112	171	107	109
白糖	103	110	110	110	103	106	110	112	109	109	107	110
食マ	100	107	103	112	105	108	110	120	110	112	110	116
マ	80	76	57	53	85	77	70	61	80	85	64	55
マ	75	68	57	52	90	82	79	70	95	93	86	84
マ	41	39	28	23	75	60	46	45	72	72	55	55
化学	88	88	72	76	93	87	93	84	113	112	117	121
菓	80	82	75	70	86	86	82	75	92	96	87	81
菓	78	81	66	62	88	82	81	70	78	81	67	52
菓	116	122	120	126	101	106	104	109	97	97	89	84
菓	111	112	106	101	101	96	94	89	100	98	94	80
酒一	84	85	82	82	81	84	87	89	94	93	94	98
酒二	38	38	33	21	98	99	97	99	87	91	82	90
酒	105	112	112	115	120	136	143	172	153	153	200	197
酒	331	360	425	503	293	364	544	573	806	997	1,723	1,756
酒	55	56	48	38	66	60	57	54	76	73	73	63
二級	72	76	74	55	52	44	50	36	88	88	76	80
緑	73	72	67	64	73	73	66	64	75	76	67	62
紅	36	32	24	12	50	42	25	21	63	63	37	33
コ	75	63	50	50	69	63	63	44	80	80	68	69
サ	66	71	71	55	69	63	58	56	90	86	85	92
*外	62	53	46	30	78	67	58	50	80	77	65	57

備考 *印は金額を示したもの。

表 12 人口規模別による市町村区別, 所得階層別, 食品購入量 (勤労者世帯)
(大都市を100とした指数)

年次	昭和39年								昭和34年							
	2.5~3.0万円				4.0~4.5万円				2.5~3.0万円				4.0~4.5万円			
	人口規模				人口規模				人口規模				人口規模			
	中	小A	小B	町村	中	小A	小B	町村	中	小A	小B	町村	中	小A	小B	町村
世帯人員	3.39	3.53	3.65	3.94	3.91	3.97	3.98	3.97	4.27	4.33	4.45	4.49	4.96	4.86	5.01	5.00
米内米類	108	123	129	130	111	111	120	123	120	121	122	129	116	115	119	126
内地米(配)	137	160	145	164	121	125	145	138	107	117	109	106	97	104	106	125
内地米(非)	68	71	106	80	95	89	82	98	148	133	148	175	165	143	160	139
押し麦	567	650	950	2,067	571	614	357	414	195	264	270	337	185	243	282	369
食パン	55	46	54	36	80	68	63	60	53	56	50	41	40	48	40	27
あんぱん	158	167	238	121	208	281	335	312	—	—	—	—	—	—	—	—
小もゆ	139	166	161	263	120	133	152	203	82	91	87	100	113	137	143	122
ゆでうどん	35	37	17	9	64	64	57	37	86	88	69	42	77	52	26	36
干うどん	79	87	74	64	99	92	96	92	97	80	78	64	96	78	82	93
生鮮魚介類	118	128	129	130	111	113	115	124	153	155	152	161	152	151	141	141
あさぎ	156	182	180	195	113	122	138	125	139	152	177	177	151	139	124	163
さぎ	117	148	158	164	139	148	158	159	164	145	150	174	173	168	152	190
また	116	133	132	151	110	124	131	133	126	143	167	148	109	128	154	130
た	97	128	88	70	124	86	121	70	150	138	120	119	178	127	92	126
ぶい塩煮塩	55	61	74	71	91	84	121	69	88	92	115	92	108	98	78	78
干魚介類	131	140	140	141	122	129	132	123	153	168	155	202	148	174	164	180
煮塩	104	111	122	142	111	121	120	157	90	100	109	101	98	105	105	106
塩	117	155	156	218	135	146	173	186	145	153	188	183	138	117	134	138
た	133	111	140	100	107	104	115	81	88	125	77	87	92	89	112	86
かた牛豚鶏	120	100	140	140	91	82	82	91	100	130	180	170	163	158	105	26
肉	60	73	68	38	64	49	49	58	67	83	31	45	62	59	45	38
肉	68	72	65	44	93	82	76	71	89	148	77	67	93	79	75	86
肉	92	85	79	76	82	69	68	70	84	138	75	67	97	89	77	69
肉	68	67	69	48	87	87	69	75	86	129	85	56	136	105	100	72
鯨ハソベ乳	141	159	126	203	115	97	128	110	163	179	152	165	143	120	98	145
セー	58	52	48	45	93	100	83	88	80	151	63	66	73	63	65	55
コ	56	47	63	39	67	66	46	40	58	127	31	32	59	56	44	38
乳	76	84	100	36	77	67	70	43	89	104	65	73	72	95	89	75
卵	78	75	68	63	89	88	75	74	81	81	72	72	95	94	96	79
鶏牛バチキ	*97	*101	*96	*83	*94	*93	*89	*82	*94	*90	*76	*77	*100	*93	*98	*78
卵	68	62	60	57	91	90	75	82	81	88	78	84	86	96	97	90
チーズ	48	38	24	40	85	53	46	40	71	62	54	43	75	64	40	54
ベ	43	17	11	17	100	77	61	68	113	125	63	50	65	75	90	40
ベ	107	85	80	61	88	71	62	56	93	85	72	84	91	90	82	63
はは甘馬大	89	83	70	48	90	79	113	109	91	85	79	65	80	82	63	63
う	131	108	150	113	131	125	141	125	111	126	135	133	133	143	150	122
く	122	124	122	113	136	129	120	103	136	157	151	165	129	137	137	126
し	84	81	75	51	93	86	73	66	95	95	65	77	88	90	77	88
鈴	140	123	131	95	148	122	146	79	166	169	176	173	161	193	216	89
大	100	91	90	93	94	81	85	75	100	99	86	81	57	90	82	112
人	151	164	218	157	117	116	117	98	138	147	144	164	159	164	173	202
ご	87	89	84	81	107	96	88	94	94	92	78	87	87	80	85	78
玉	81	70	71	44	87	76	82	54	81	91	86	56	96	86	100	51
き	123	88	89	64	110	83	92	54	123	117	83	74	111	107	76	64

(表12つづき)

年次	昭和39年								昭和34年							
	2.5～3.0万円				4.0～4.5万円				2.5～3.0万円				4.0～4.5万円			
	中	小A	小B	町村	中	小A	小B	町村	中	小A	小B	町村	中	小A	小B	町村
ピーマン	138	120	109	93	119	87	96	66	73	76	66	41	68	79	61	86
大豆	188	163	113	200	153	113	167	107	204	277	408	428	232	408	368	381
小さい乾し豆	96	131	140	125	106	111	109	156	121	134	140	195	119	111	188	275
乾しいたけ	127	127	109	91	111	100	111	89	100	92	92	85	95	86	77	68
乾しいたけ	*98	*105	*92	*106	*89	*100	*93	*109	*84	*96	*87	*87	*59	*76	*62	*48
干豆	180	180	160	140	200	225	300	275	—	—	—	—	—	—	—	—
油	120	108	116	106	93	83	89	82	127	115	109	109	101	96	95	87
あもど	62	71	83	84	86	97	101	107	61	66	72	64	75	81	93	103
がさつ	64	57	49	57	76	73	69	67	85	72	63	65	90	73	72	81
まあげ	113	148	135	122	84	86	95	95	90	86	83	81	70	81	80	52
ちまこ	99	114	122	112	112	121	106	106	92	96	99	95	98	115	109	121
かまぼこ	*98	*88	*92	*89	*124	*116	*107	*88	*170	*132	*146	*135	*143	*111	*106	*114
その他練製品	*72	*63	*59	*53	*54	*60	*40	*44	*101	*102	*93	*101	*95	*91	*92	*100
魚介のかん詰	193	200	275	245	109	120	123	176	102	106	111	113	79	96	122	128
肉のかん詰	180	170	230	190	121	105	116	153	80	90	107	80	49	82	56	62
野菜のかん詰	120	100	130	120	79	84	79	74	119	167	76	72	70	136	76	73
野菜のサラダ	320	300	410	210	126	139	181	129	252	104	104	96	94	206	94	121
野菜のサラダ	41	36	32	14	51	49	33	35	67	49	30	25	33	34	25	23
野菜のサラダ	77	71	82	55	75	86	86	85	71	80	72	71	70	91	97	85
野菜のサラダ	45	40	30	17	46	60	40	41	37	42	29	15	25	44	34	20
食塩	156	202	243	399	168	187	193	243	185	212	228	302	187	202	224	224
しょう油	120	141	149	157	119	126	133	136	123	138	147	147	132	136	150	159
味の素	119	124	119	125	117	116	107	115	126	124	120	120	122	107	124	104
白砂糖	87	102	112	120	130	133	139	148	117	132	130	124	98	103	110	105
食塩用油	108	121	110	135	114	119	115	142	109	116	113	141	92	101	110	111
マヨネーズ	83	74	93	41	147	104	112	112	82	82	64	66	81	78	84	60
化学調味料	99	92	129	81	97	95	95	89	78	90	68	83	72	62	44	60
化学調味料	58	58	27	42	133	115	78	102	45	53	33	29	53	42	21	49
化学調味料	111	114	134	114	89	79	89	89	112	125	106	100	126	113	113	91
化学調味料	*103	*102	*104	*103	*96	*99	*98	*86	*94	*100	*98	*98	*95	*95	*99	*95
ビスケット	108	112	143	79	121	130	135	111	88	94	76	69	87	87	87	106
あ果物	104	129	117	110	101	111	120	119	144	140	160	152	120	119	133	153
酒	90	89	102	88	104	102	106	101	88	94	76	69	87	87	87	106
一級清酒	*76	*94	*92	*93	*94	*92	*101	*107	*69	*70	*68	*73	*115	*132	*117	*133
二級清酒	98	114	83	84	63	58	58	63	14	10	11	10	77	193	162	65
二級清酒	101	132	129	161	106	111	127	130	81	101	97	94	173	185	163	195
焼酎	38	71	71	43	297	497	705	600	206	228	305	476	1,425	860	1,230	1,395
二級ウイスキー	75	87	103	69	82	68	67	92	42	37	57	23	73	82	61	73
緑茶	38	77	45	34	111	98	91	74	51	50	40	37	57	80	111	35
緑茶	66	77	74	74	72	75	67	63	74	80	79	67	86	82	78	83
紅茶	25	13	19	13	91	55	36	27	42	37	26	26	41	47	24	26
アイスティー	100	100	109	55	100	100	100	79	80	80	100	60	180	120	80	140
アイスティー	97	75	116	66	83	55	95	73	73	61	64	61	67	60	67	100
外食費	*101	*81	*85	*63	*86	*84	*71	*67	*77	*69	*52	*45	*79	*62	*57	*45

備考：*印は支出金額の指数である。

水準の影響が34年よりも39年においてかなり強くあらわれてきたというように考えられる。

その他詳細に分析するといろいろのパターンに分けることができるが、昭和34年調査から39年調査にかけてみられる重要な傾向は、高い所得水準階層では大都市、中都市、小都市A、B、町村といった地域の間で平準化する傾向がでてきたということと、低所得階層ではこれらの地域間で格差がかえって拡大化し、よりはっきりとあらわれてきたというように考えることができる。ゆでうどんやかつを節、鯨肉等もその例である。特に鯨肉では4.0万から4.5万円の所得階層ではほとんど100ないし130の水準にあるが、2.5万から3.0万円の所得水準階層では130から200の間に分散している。

また、低所得階層で購入量が全般に低水準でありながら地域間格差が収縮する傾向のものもみられる。たとえばハム、バター、牛乳等である。これは特に洋風的な食生活意識の浸透過程あるいは食生活の国民的平準化の過程の一端を示しているものと思われる。

6 総 括

以上各節においては昭和34年と39年、44年の消費実態調査結果にもとづいたものであったが、第5節においてはもっとも最近のデータである昭和44年調査結果がふくまれていない。したがってここでは39年にみられた変化が44年にはどのように進行しているかについてはにわかには判断できない。しかし、34年から39年にかけての変化の方向をほぼそのまま44年に延長することもそれ程不合理には思われぬ。この点を考慮に入れながら、食行動における地域的動向を考察すると次の如く要約することができよう。

第1点は、日本人口の伝統的な食生活や食意識が戦後の経済・社会変動と都市化・人口移動の中で次第に変わり始めてきたこと、そして特に昭和40年頃を転機として注目すべき転換期にはいつてきたのではないかということである。

第2点は、そのような変化の中で、食行動や食意識に影響を与えた所得水準上昇の影響である。しかし、この所得水準の一般的上昇が食行動に与えた影響度は、その他の生活上のいろいろな側面、たとえば衣住あるいはレジャーとかといった分野に与えたものよりも低く、かつ時間的おくれがみられた。しかし、このようなおくれもほぼ40年頃から次第に加速的に回復しつつあるとみられる。

第3点は、このような動きからみた食行動の地域性の傾向である。その変化は既にのべたように非常に複雑である。その中でももっとも特徴的なのは所得水準の一般的上昇にともなって、まず高所得水準階層における食行動の平準化が進行するといった段階的变化である。その結果として大都市、中都市、小都市、町村といった地域のいかにかわらず、高い所得という次元の中での格差の収縮傾向が生じてくる。それは、伝統的な食品と新しい食品のいかにかわらず格差が収縮する傾向が一般にみとめられる。しかし、反面において低所得階層では当該地域特有の食品の利用が反って高まるという傾向さへみられた。このような高所得層における地域性の喪失と低所得層における地域性の強化という二重構造あるいは分裂現象というものは、全人口の食行動における平準化への過程の過渡期的なものとして判断することができる。食料費における主食費と副食費の割合の分析でみられた如くすべての地域ですべての食品についての平準化が同時に進行するわけではない。一般的な平準化傾向の中で特殊の食品については地域性が強く残存していく可能性も大きいと思われる。つまり昭和40年はいわばこのような食行動における地域人口の転換期として特に注目に値する。

所得水準の上昇の持続と共にマス・コミ、人口移動、人口流動あるいは全国的都市化さらにまた核家族化、教育水準の一般的上昇によってこのような食生活の地域格差は1970年代において一層進歩するものと予想される。

しかし、このような平準化過程の中で注目しなければならない点は、増大する新しい食品や食品形態と伝統的な食品との調和あるいは、合理的に利用するという点である。冷凍食品やインスタントラーメンは昭和38年から43年までの5年間に前者は4倍、後者は3倍に増大した。反面において漬物とか味噌汁の摂取といった伝統的嗜好は強く残っていくものと思われる。

そしてまた激増する新しい食品情報に対する適応のしかたになお大きな地域差が残っていくのではないかと予想される。いいかえれば、食料品目からみた地域的平準化の中で、利用のしかたといった実質的側面からみた格差という問題が今後の1つの新しい課題として登場してくるであろう。

Regional Populations and Dietary Behavior in Japan: Convergence and Differentiation

Sumiko UCHINO

1. Objective and Data

This article attempts to find out differentials and changing process in dietary behavior in the postwar Japan. Taking into account of data availability satisfying both time series and regional analysis, the use of the National Survey of Family Income and Expenditure conducted by the Bureau of Statistics, Prime Minister's Office was made. This survey started in 1959, and since then has been conducted every five years, namely in 1964 and 1969. These surveys seem to represent typically overall process of high economic growth in the postwar Japan. The 1959 year is characterized by the initial stage of economic growth after the postwar reconstruction stage, and 1964 represents a trough of business cycle and also the last 1964 features the most recent economic expansion period. So, I assume that time series surveys, although limited to only three periods of time, may be probably sufficient to reflect significant changes in dietary behavior in terms of consumption.

In addition, it is particularly unique that the survey results are tabulated by prefecture and also by classified groups of minor civil divisions by the size of population, which are not available in any other national surveys of this kind. The minor civil divisions, namely city, town and village, are grouped into four categories: first, large cities having more than one million population, second, middle size cities with more than 150,000 inhabitants, and third, small cities divided into two sub-groups - A group with population of 50,000 to 150,000, and B group with less than 50,000 population, which include all towns, villages and some cities.

By utilizing these three periodical surveys on consumption, food expenditure, purchased foods and related matters, regional structure and differential change are examined.

2. Some Findings and Conclusion in Summary

An very important and interesting suggestion is that the period of time around 1965 may be characterized as transitional or turning point of dietary custom and consciousness of Japanese population, which should be distinguished from previous period.

In general, it is probably accepted that rapidly rising trend of income level tends to greatly influence dietary behavior. However, it should be noted that the extent of effects of income level on dietary behavior has been much weaker than its effects on various aspects of daily life like clothing, shelter and leisure, and also lagged behind them. However, accelerating recovery of lag has started since around 1965.

It is pointed out that general rising trend of income level initiated reduction of differentials of dietary behavior particularly among relatively higher income groups irrespective of the difference of localities. On the other hand, however, low income groups tended to show even strengthening regional characteristics in taking local customary foods. This seems to be an initial stage, which is characterized by dual or splitting process, in other words a transitional stage toward the convergence of national dietary behavior.

In addition to the rapid increase of income level, mass communication, population mobility, urbanization, nuclear family system and other related social-economic development are expected to reduce more regional differentials in dietary behavior in the 1970's.

In connection with such a convergent process of dietary custom among regions, attention should be paid to a new question of how to harmonize newly increasing types of foods with traditional ones, that is a question of rational utilization of new and old ones. Furthermore, it may be anticipated that adaptation to emerging new foods like frozen and instant type foods may vary among regions. Consequently, the transition to more uniform behavior in diet in regions may create another differentials resulting from urbanization and technology. However, they are essentially different from regional differentials, which are discussed here, because these new foods have not any regional origins.